

平成12年度全国女性委員会会議報告

※平成12年度より女子委員会から女性委員会へ名称変更

- 期日 平成12年7月8日～9日
○場所 日本青年館
○参加者 松田久美 [全国から41名参加]

【会議報告】

1日目

◎平成11年度活動報告及び12年度活動計画

平成11年度は日本陸連組織改正の1年目だったので、迷惑をかけたが、11月3日〔祝日〕に第17回レディース陸上の開催を、新種目講習会・記録会を3月20日に開催した。いずれも地方から多くの人が参加し、意義あるものとなった。

平成12年度より、第18回レディース陸上を開催するが、女子新種目の棒高跳び、三段跳びにくわえ、3000mSCが加わり、リレーでは1600mRを100、200、300、400に変更。参加費も2000円から1000円にし、気軽に参加できる大会とする。3000m障害の講習会を8月27日にエスビー食品の田幸寛史コーチに講師で実施予定。地区でもPRしてほしい。また、今年度のレディース陸上では、各都道府県より女性審判1名研修参加をお願いしたいので、ぜひご協力いただきたい。

◎熊本県研究調査報告

「くまもと国体における女性審判起用への足跡」 発表者：大和田智子さん

女性審判員数は、昭和35年国体のときに4名。今回の国体は66名とふえた。投擲、跳躍の女性種目はすべて女性審判員で。また、トラック競技においてもスターターは女性審判を起用。熊本県の女性審判員が増員できた経緯は、ロコミ、学生勧誘、マスターズやクラブの協力などがあり、今では各大会の中で120～160名中35～40名の女性が審判として活躍している。

競技会では、女性審判員がいることにより、雰囲気明るく和やかになる。仕事の内容によっては女性のほうがよいといわれる部署もある。今の女子部があるのは広島県視察があつてからこそもの。当時の理事長、審判部長に感銘をうけ、「ぜひ熊本でも・・・」と女性審判員を集めることから始まった。今後男性審判員の指導を受けながら、女性たちの手で企画運営し、レディース大会を熊本でも開催し、成功させたい。来年の熊本インターハイにむけ、もう少し増やしたい。若い女性審判員のための託児所、フリーマーケット（農作物販売協力）などにも取り組んでいきたい。

◎専門委員会別ディスカッション

「21世紀に向けて女性が委員会の中でやるべきこと、やれること」

★強化・普及について

現状では圧倒的に女性人数が不足。強化部に入れない。まだまだ男性社会である。女性が結婚、育児を経過しても継続可能な復帰可能なサポート体制がある。女性指導者は選手のメンタル面において必要不可欠。選手の強化は、小中高の連携が大事。今後発言の場をふやし、強化選手の実績を重ねる。

★審判・競技運営について

現状としては、女性審判員が少ない。中学校、高校の大会では、教員でまかなえるが、一般の大会では非常に少ない。子育てをしながらの審判に配慮が足りない。審判の産休、時差出勤導入、審判員確保の対策を検討する。そのためには、大会プログラムに女性審判員の募集広告を掲載する（新聞広告により一般

の方の審判講習受講の実例あり)。女性が役職に推薦されたら、積極的に承諾し、次世代のための基礎をつくる。

◎講義講習会「ジュニア期におこりうるスポーツ障害とその予防」(鳥居 俊氏)

- ・ジュニア期に発生しやすいスポーツ障害
- ・障害予防のためのメディカルチェック

[各地区陸上競技協会より] **福井県の報告**

オリンピック出場者

★吉田良一(400mH 現足羽高校教員) 84ロサンゼルス大会、88ソウル大会出場

世界選手権出場者

★吉田良一(400mH)、吉田香織(4×100mR)

アジア大会

★井上美加代(800、1500m)、片岡雅彦(円盤投)、山形依希子(400mH)

以上の選手(吉田、吉田か、山形)は日本記録も樹立している。本年はさらに坂上香織(旧姓:吉田)が1000mで日本記録を樹立。続く、谷口健史(足羽高校、三段跳びランキング1位)、山本知佳(敦賀高校・1000mH)、林由佳(敦賀高校・2000m)が岐阜インターハイ優勝を目標に活躍してほしい。

(悩み)

・せっかく強化しても本県に残せない。大南博美・敬美(東海銀行)、笠島里美(デンソー)など力のある選手が県外へ流出。地元で育てられるように今後がんばっていききたい。